

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年 8月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400276
法人名	医療法人社団 醫光会
事業所名	グループホーム のぞみ
所在地	群馬県高崎市下佐野町 752-1 (電話) 027-320-2260
評価機関名	サービス評価センター はあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町 1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成 21年 6月 25日

【情報提供票より】(21年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 5月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	約 51,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 91.5歳	最低	87歳	最高	101歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまなクリニック
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日々の生活が単調にならないために、日常的に買物・散歩・ドライブ・外食・果物狩り等外出の機会を多くもっており、ホームでの生活が楽しく送れるような支援に取り組んでいる。利用者の健康管理の観点から、食べること・飲むこと・出すことに対する配慮と合わせて、散歩による体力維持等についても、職員が共通認識を持って対応している。家族へのホームからのお便りは各個人宛になっており、利用者の生活の様子が分かるような工夫で作成し、毎月発送している。家族にとっては入居者の状況の変化等についても把握出来、家族との信頼関係の構築の一助になっていると思われる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果を踏まえ、会議で話し合い、取り組みを期待したい項目3点のうち2点、地域密着型サービスとしての理念と評価の意義の理解と活用については改善に取り組んでいるが、入浴を楽しむことの支援については更なる努力を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は全職員が各自の意見を評価票に記入し、管理者が集約して制作したものである。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催しており、ホームからは利用者の様子や行事報告、議案提出等を行い、各委員と意見交換をしている。家族は順番で出席しているが年1回は全員参加をお願いしている。市担当者より利用者も参加させて欲しいとの提案で、2~3人の利用者が参加している。委員からの要望もあり、管理者が認知症のセミナーを行い認知症に対する理解を深めた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関とホールに苦情受付窓口を明記すると共に苦情箱を設置している。家族等の来訪時には家族等への声かけの工夫で話しやすい雰囲気を作っている。年に2回、食事やお茶を共にしながら家族会を開催、家族等との会話の中から意見・要望・苦情等を引き出すように努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>これまでは近隣に民家が少なく、従来からの地域の繋がりが強いため地元の方々との触れ合いは難しかったが、運営推進会議開催により区長や民生委員を通して、地域の人々との交流が出来る様になってきた。隣接の幼稚園の七夕まつりや運動会に招待されたり、秋祭り等のホームの行事には地域の方々に参加を呼びかけて交流の機会を作っている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割について職員会議で話し合い、開設時に作成した理念を見直し、地域との関係性を盛り込んだ新たな理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の申し送り時、毎月開催の職員会議、問題が起きた時などに理念を振り返り、確認しながら、全職員が理念を共有して実践に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	これまでは近隣に民家が少なく上に、従来からの地域の繋がりが強いために、地域の人との触れ合いが難しかった。運営推進会議開催により、区長や民生委員を通して地域の方々とも交流が出来るようになってきている。隣接の幼稚園の七夕まつりや運動会に招待されたり、秋祭り等のホームの行事には地域の方々に参加を		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を踏まえ、会議で話し合い、取り組みを期待したい項目3点のうち2点、理念の見直し・評価の意義の理解と活用については改善に取り組んだが、入浴については更なる努力を期待したい。今回の自己評価は全職員が各自の意見を評価票に記入し、それらを管理者が集約して作成したものである。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、ホームからは利用者の様子や行事報告、議案提出等を行い各委員と意見交換をしている。家族は順番で出席しているが、年1回は家族の全員参加をお願いしている。市担当者より利用者も参加させて欲しいとの提案があり、2～3人の利用者が参加している。委員からの要望で管理者が認知症についてのセミナーを行い認知症に対して理解を深めた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の担当者が出席し意見交換を行っている。手続き代行や更新手続きのためにケアマネジャーや管理者が市役所を訪れ、相談等をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態、個人の金銭出納状況等をお知らせしている。毎月1回、利用者別にそれぞれの様子等を記したお便りを送っている。運営推進会議や年2回開催の家族会等においても職員の異動やホームの様子を報告する機会を持っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関とホールに苦情受付窓口を明記すると共に、苦情箱を設置している。家族来訪時には家族への声かけの工夫で話やすい雰囲気を作っている。年に2回、食事やお茶を共にしながらの家族会を開催して、家族との会話の中から意見や苦情を引き出すように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者へのダメージを考慮の上、異動等は必要最小限に抑えている。管理者は常に職員に対して気配りを行い、勤務し易い環境作りを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で定期的に行われる研修会に職員は参加して、内容については報告書類を提出し、職員会議等で意見交換をする等勉強の場を持っている。	○	外部研修出席については法人が決めるため、出席する機会が少ない。法人外での研修に出席することで、別な見地からの学びの場となり、他の事業所との情報交換の機会にもなるので、職員の質の確保・向上のためにも、外部研修受講について検討して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入しており、グループホーム大会に参加し、地域の同業者との交流の機会を持ってサービスの質の向上に反映させている。グループホーム大会では体験発表をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望のある場合には出来るだけ自宅、施設等に面会に伺い、本人・家族等から意見や要望を聴いている。本人・家族にホームを見学しながら雰囲気を感じてもらったり、お茶を飲みながら話し合いを行って利用に結び付けている。入居後不安のある方には職員が寄り添い、話を聞いたり、自宅まで一緒に行く等、自然に馴染めるよう対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員は同じ家族の一員との考えで、共に過ごし、学び支えあう関係を大切に考えて日々の支援にあたっている。人生の先輩としての利用者から、ことわざ・昔の習慣・戦争中の苦労・昔流行った歌などを教えてもらうことが多い。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制になっており、個人別に得た情報は記録や話し合いで全員が共有している。日頃の言動の観察と声かけを多くすることで、利用者の思いや意向を聴きだすように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が本人の意向を、ケアマネジャーが家族等の意向や要望を聞き、職員会議で本人や家族の気持ちを反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には月1回のモニタリングと3ヶ月に1回の見直しを行っているが、状態の変化に伴い、随時、現状に即した見直しを行い新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて、通院支援、買物同行等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医がかかりつけ医の場合は毎週火曜日に協力医の往診がある。歯科医師の往診もあり、診察、治療の結果は家族来訪時や電話で報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としての「重度化、終末対応指針」を作成しており、入居時に本人・家族に説明し、同意書に記名、捺印してもらい、方針の統一化を図っている。自己決定と尊厳を守る看取り介護として、状況の変化に応じた対応についても文書化し全員が共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入職時に秘密保持に関する契約書を交わしている。一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、声かけ(特にトイレ誘導時等)や対応に注意をはらっている。個人情報や記録の取り扱いについては徹底させている。又、家族等の面会時の会話にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、利用者の思いや体調等に配慮しながら、一人ひとりの希望に沿った対応をしている。起床時間やテレビ観賞、散歩等、それぞれが自由な時間を過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れた献立により、食事の準備等は利用者が出来ること(テーブル拭き、茶碗拭き等)を職員と一緒にやり、同じテーブルで同じものを食べている。月に2回出前を取ったり、月1度は外食(回転すし・洋食・中華・麺類・鰻等)をする等食事が楽しいものになるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や好み等に配慮しながら、週に3回午後の入浴の支援を行っている。ぬる湯・あつ湯・長湯等利用者の要望に合わせての対応や菖蒲湯・ゆず湯・入浴剤の使用等により入浴が楽しいものになるよう配慮している。	○	入浴を楽しむことのできる支援について、努力している様子は伺われるが、利用者が入浴を希望する時にはいつでも入浴が出来るよう、個性のある入浴の支援について更なる努力を期待したい。
をたのしみうえ					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器拭き・テーブル拭き・掃除機かけ・洗濯ものたたみ・はり絵・折り紙・毎月の行事・ボランティアの訪問(手品、踊り・歌など)外食・ドライブ等、役割・気晴らし・楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の要望に応じて、日常的に散歩・買い物・外食・ドライブ・季節の花見・果物狩り・初詣・イルミネーション見学など利用者が戸外に出て楽しめるよう積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべての職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、見守りや利用者の状況の把握、近隣の人の協力等で日中は鍵をかけていない。チャイムがついているが、静かで優しい音色で、利用者を監視するという印象は受けない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルが作成されており、法人として年に2回(消防署立会と自主訓練)、昼と夜間を想定して避難訓練を行っている。推進会議等を通じて近隣の方々には協力依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月1回、体重測定を行い、体重の変化を見ながら栄養のバランス等を考慮した食事を提供している。食事と水分の摂取量は記録に残し、利用者の健康管理に繋いでいる。特に水分の摂取の大切さを理解しており、少なくとも1日に 1,000cc以上は摂取するよう取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはお香がたかれ、玄関をはじめホール各所に季節の草花が、壁面には行事案内、利用者の作品、写真等が飾っており、ホール全体に落ち着いた大人の雰囲気を感じられ、利用者が居心地良く過ごせるような配慮をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのタンス・テレビ・鏡台・家族の写真・利用者の作品・絵画・人形・時計等が持ち込まれており、利用者が居心地良く過ごせるよう、個性のある居室作りが工夫してある。		